

富士興産

バイオ燃料「姫路製造所」竣工

製造・出荷能力 最大 1万2000 kℓ 規模

富士ユナイトホールディングスグループの富士興産は、全国4カ所目となるバイオ燃料製造拠点「姫路製造所」（兵庫県姫路市）を開所した。年間製造・出荷能力は、軽油にバイオ燃料（脂肪酸メチルエステル＝FAME、B100）を5%混和した「B5軽油」換算で同社最大の1万2000 kℓ規模を誇る。22日に試運転を開始し、来年1月以降に本格稼働に移行する。川崎靖弘社長は21日に同市で開催した竣工式典・記念パーティーで、潤滑油メーカーとしての来歴に触れ「人々に“製造”的立場に本格復帰する。本製造所開所は単に新たな工場が稼働するという以上の意味をもつ」と語った。

川崎社長、メーカー本格復帰を宣言

同製造所には総容量1基、B100タンク3基を設置。将来的に各32基の軽油タンク2基、製品タンク3基の計8基を設置。

A重油に転用し、バイオ重油の製造も計画する。

混和製造設備はバイオ燃料の混和比率を自由に設定できる自社開発の濃度可変型ブレンダー「富嶽」を導入。

受入・出荷設備は高さ8mの大型キャノピーを備え、大小のタンクローリーやISOタンクコンテナなどあらゆる荷姿での出入荷ができる。またAI（人工知能）による監視システムも採用した。

当面はB5、B30、B100出荷のほか、任意の混和比率での受注生産にも対応する。

川崎氏は「バイオ燃料は現時点では主流の燃料ではないが、リスク

を覚悟のうえで本格時代に先駆けて本製造所を立ち上げた」と説明。「製造プロセスの



安全性や製造商品の品質、出荷体制の柔軟性

と効率性を徹底的に維持して、日本最高水準の運用で稼働させる」と述べた。

恩田靖執行役員販売本部次世代エネルギー部長は、竣工記念パーティーの中締めのあいさつで「姫路を起点として「姫路を起点として中国・四国までの広いエリアの需要をカバーすること」で、関西から

エリヤの需要をカバーすること」で、関西から同製造所での神事にはグループや取引先の関係者など約40人、「ホテル日航姫路」で開催した竣工記念パーティーには約100人が出席した。

する重要な拠点となり得る」と同製造所の意義を語った。

またバイオ燃料の普及拡大には、①原料の安定確保②出荷・ラ

油施設、二次配送・ラ

ストランマイル配達の規制・規格対応の改善などが必要と指摘。各

分野で関係者と連携す

ることが課題解決の道筋との考え方を示した。